

例会記録

第55回日本医史学会神奈川地方会秋季例会・
日本医史学会 合同例会令和2年9月26日(土)
鶴見大学会館

一般演題

1. 小寺家文書から読み解く明治後期の地域医療
岡崎女子短期大学准教授 黒野伸子
2. コロナウイルスはどこから来たか?
保健科学研究所 加藤茂孝

依頼講演

温泉と医学：歴史上の人物のかくし湯についての
検索とその医学的適応についての考察
横浜市立大学医学部医学教育学教授 稲森正彦

特別講演

グローバル化と感染症——遣唐使と痘瘡，元寇と
ペスト，コロンブス交換と梅毒，幕末のコレラそ
して21世紀のCOVID-19

日本大学医学部病態病理学系微生物学分野教授 早川 智

日本医史学会 10月例会

令和2年10月24日(土)
順天堂大学10号館105カンファレンスルーム
(オンライン)

1. 翻訳者フナインと『医学問答集』 矢口直英
2. 「医は不仁の術」再考
——戦時と平和時の，個別的倫理と集合的倫理——
津谷喜一郎

例会抄録

小寺家文書から読み解く明治後期の地域医療

黒野 伸子，大友 達也

岐阜県大垣市の旧家である小寺家には，近世後
期から近代にかけて約9000点の資料が伝来して
おり，そのうちの約100点が「衛生医療」に関す
る資料である。処方箋，種痘証明書，診療明細書，
富山の売薬商や婦人病薬に関する資料，家庭薬
報，受診券などがあり，年代が判明しているもの
で明治7(1874)年から昭和21(1946)年に及ぶ。

特筆すべきは，明治41(1908)年6月11日か
ら8月11日にかけて発行された9通の「診療明
細書」が伝わっていたことである。本資料は当主
小寺弓之助長女が虫垂炎で入院した際に患家に交

付されたもので，当家日誌にも入院記録が残る。
本発表では，「診療明細書」「小寺家日誌」「種痘
証明書」「健康食品の啓発冊子」等を併せ，明治
後期の地域医療の一端を明らかにすることを主な
目的とした。なお，翻刻，解題は名古屋大学石川
寛准教授による。

注記：本研究の一部はJSPS科研費17K04658による助成
を受けて遂行された。

(第55回日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・
日本医史学会9月例会 合同例会)